



JAIPA 地域ISPの集い in 札幌
地域でがんばる次世代エンジニアホンネトーク！



平成22年9月17日
技術部技術2課 木村真



自己紹介

- 氏名:木村真
- 所属:ケーブルテレビ株式会社 技術部技術2課
- 年齢:36歳
- 経歴:某大学経営学部経営学科を卒業(生粋の文系人間です)
前職はビジネスホン・FAX・複合機等の営業職(新規開拓、飛び込み営業専門)
1999年12月頃 栃木ケーブルテレビ株式会社(現在のケーブルテレビ株式会社)に入社 営業技術課に配属
2000年4月頃からインターネットサービスの担当を兼務
その後、技術部技術2課に配属 現在に至る
- 現在の業務内容:ネットワークの運用保守、営業(行政機関等)、お客様宅に設置されたONUやケーブルモデム等の端末交換、新サービスの企画立案、サーバ構築、お客様のパソコンお悩み相談等、業務は多岐にわたります



会社概要(抜粋)

- 社名 ケーブルテレビ株式会社
- 設立 昭和62年11月6日
- 所在地
 - 栃木センター・本社
〒328-0024 栃木県栃木市樋ノ口町43-5
TEL 0282-25-1811 FAX 0282-25-1818
 - 館林センター
〒374-0013 群馬県館林市赤生田町2319-1
TEL 0276-71-1822 FAX 0276-71-1823
- 主な事業内容
 1. 有線テレビジョン放送法による有線テレビジョン放送事業
(郵政大臣許可 第09008号)
 2. 電気通信事業法による電気通信事業
(郵政大臣許可 関第14号)
- 放送エリア(平成22年9月現在)
栃木県: 栃木市、岩舟町、西方町、壬生町の一部
群馬県: 館林市、板倉町



ケーブルテレビ株式会社



会社沿革(抜粋)

- 1987年11月 栃木県栃木市において栃木ケーブルテレビ株式会社設立及び創業
- 1990年9月 有線テレビジョン放送施設設置許可取得
- 1991年10月 栃木県栃木市の一部開局(栃木市全エリア開局:平成11年12月)
- 1996年12月 日本初の非対称ケーブルモデムの公開実験を実施
- 1999年11月 ケーブルインターネット実用化実験開始
- 1999年12月 第一種電気通信事業免許取得
- 2000年1月 有線テレビジョン放送施設設置許可取得(下都賀郡大平町・都賀町)
- 2000年4月 ケーブルインターネット接続サービス開始
- 2000年10月 郵政省の『新世代地域ケーブルテレビ施設整備事業』により下都賀郡大平町・都賀町の一部開局(両町全エリア開局:平成14年12月)
- 2001年3月 有線テレビジョン放送施設設置許可取得(下都賀郡岩舟町・藤岡町)
- 2001年5月 BSデジタル放送をトランスモジュレーション方式で放送開始
- 2001年10月 総務省の『新世代地域ケーブルテレビ施設整備事業』により下都賀郡岩舟町・藤岡町の一部開局(両町全エリア開局:平成15年12月)
- 2001年12月 有線テレビジョン放送施設設置許可取得(上都賀郡西方町)
- 2002年9月 有線テレビジョン放送施設設置許可取得(群馬県板倉町)
- 2002年10月 総務省の『新世代地域ケーブルテレビ施設整備事業』により下都賀郡西方町全エリア開局
- 2002年12月 群馬県企業局の要請により、群馬県板倉町の『板倉ニュータウン』地区開局
- 2003年10月 ケーブルインターネットを活用したIP電話サービスを開始
- 2003年12月 東京から光ファイバー伝送でデジタル信号を受信することで首都圏でいち早く地上デジタル放送のサービスを開始
- 2004年3月 有線テレビジョン放送施設設置許可取得(群馬県館林市)
- 2004年6月 事業エリア拡大に伴い商号を「ケーブルテレビ株式会社」に変更
- 2005年7月 業務拡張に伴い、本社を栃木市樋ノ口町43番地5へ移転
- 2006年8月 群馬県館林市の一部開局
- 2007年8月 自主制作チャンネルの地上デジタル放送開始
- 2007年11月 プライマリーマーク取得
- 2007年12月 総務省の『地域情報通信基盤整備推進交付金』により館林市の全域をFTTHにより開局
- 2008年4月 KDDI社と提携し、プライマリー電話サービス「ケーブルプラス電話」の提供開始
- 2008年7月 総務省の『地域情報通信基盤整備推進交付金』により板倉町の全域をFTTHにより開局
- 2009年11月 栃木県下都賀郡壬生町の一部開局



ケーブルテレビ株式会社



ケーブルテレビ業界に入ったきっかけ

- 前職でISDN対応ビジネスホンなどを売り歩いていた頃、現在のジェイコム(旧タイトス・コミュニケーションズ)のサービスに衝撃を受ける
- 前の職場で知り合って親しくなった韓国人のエンジニア(他社より技術研修で来たはずが、なぜか間違っって営業に配属されてきた方)の方から、「これからはインターネットの時代です」と、ずっと言われ続けた
- その後、前の会社が無くなって実家(栃木)に帰った際、地元にもケーブルテレビ局があったことに衝撃を受ける



ケーブルテレビ入社～今まで

- 入社直後は営業技術課に配属
- 入社当初、基本は何でも屋さんで、担当地域の飛び込みやレスポンス営業・テレビのU/V変換・加入申込書の入力業務・ホームターミナル(ケーブルテレビチューナー)の設置・屋根裏に上がってブースター交換・地域説明会で地域住民への説明・利用料の集金など
- 担当者が不在の際にサーバトラブルが発生し、パニックの中とりあえずサーバを再起動したところ復旧してしまい、それがきっかけ(多分?)で技術二課(インターネットサービスの担当)に配属される その後、少しずつ分業化が図られる
- 元々社員全員がテレビ屋さんなので、周りにネットワークの知識に長けた人材が少なく、毎日が手探りの状態
- 当時(今も?)の会社の方針は「なるべく内製化」
- ある時はお付き合いのあるベンダーさんやSlerさんに教えてもらいながら、ある時にはO'Reilly本にお世話になりながら、またある時にはGoogle先生に教えを請いながら・・・
- 勤続約10年、とりあえず少数ながら部下や後輩も出来ました



ケーブルテレビ株式会社



最近の取り組みについて

- 市町村合併に絡んだ広域ネットワーク構築に関わってました
- 老朽化してきているサーバやネットワーク機器のリプレースを少しずつですが、やっています
- サーバを幾つか仮想化してみました
- 新サービス(1Gbpsの接続サービス)の企画立案・運用実施準備しています
- もうすぐJPIXに接続します 皆さんピア張って下さい m(__)m
- プライバシーマーク更新の準備 (事務局やっています)
- 部署内の勉強会開催



自らの課題と将来展望①

- ケーブルテレビ業界に身を置きながらテレビの知識が薄いと感じている

ケーブルテレビといえば番組制作や放送サービスというイメージ

でも番組なんて作ったことはありません

伝送路やSTB方面の知識もちょっと乏しい

同業他社の方と会話していても噛み合わないことがしばしば・・・

CATVの技術担当としてこのままで良いのか、自問自答の日々



自らの課題と将来展望②

- 後進の育成

もともと口下手で人に教えるのが苦手

だから向こうからガツガツ来て欲しいけど、栃木の若い子達はシャイ

最近「コーチング」を学んだりしてコミュニケーションスキル向上を図る

出来れば都心で開催されている講習会やら勉強会やらTEX例会なんかに積極的に後輩たちを参加させたいけど、お金も時間もかかる(栃木と東京って近いようで遠い、微妙な距離・・・)

今後どうやって後輩たちを育てていくべきかが、自分の最大の課題



自らの課題と将来展望③

- 新たなサービスへの取り組み

地域ISPでも全国展開の大手ISPに負けないサービスを提供したい！
今年中に最大1Gbpsの接続サービスを開始します！
今年中にようやくJPIXへ接続します！

でも、まだまだ現実は厳しい・・・
まだIPv6始めてません・・・
まだDNSSECも試してません・・・
その他諸々・・・

20代の頃のようなパワーが無くなってきていることを実感しながら、毎日毎日がんばっています・・・



自らの課題と将来展望④

- ここ数年の会社での自分の立ち位置の変化

年齢的にも若手ではなく中堅

ここ数年で部下や後輩もできた

会社から求められる能力にも徐々に変化が...

後輩が育たないのは自分のせい？

一兵卒で良かった時期はとうの昔に過ぎてしまった

「今の立ち位置でいいの？」と自問自答の日々



技術者交流活動を考える

- 社外の人達との交流

CATV業界は比較的ヨコの繋がりはある
上の人達はけっこう顔見知りが多いらしい
現場の人同士は外に出ないから意外とそうでもない？
でも、何かあると結構気軽に電話掛けて情報交換してみたり

JAIPAを通してCATV業界以外の人達との交流が生まれる
地域で頑張ってるISPの人達との交流はとても新鮮
創意工夫や技術力で大手ISPに対抗している皆さんに刺激
「自分も頑張らないと」と思えてくる



交流会に積極的に参加するために

- 参加するメリット(会社にとって)が明確であることは絶対条件？
目的は？(自分の仕事のどの部分に関係するか)
費用は？(交通費・参加費・人件費)
参加後の効果は？

これらをきちんと上司に説明できないと難しい(会社としては当たり前)
- 自分が発表者になる場合も同上
上記がクリアできていれば、自身も発表者となってお互いに情報を交換することのメリットは十分説明できる
- ある程度事前にスケジュールが分かっていると楽
栃木から参加するとなると丸一日になるから、事前の調整は大切



おわりに

- 時間や費用面の制約はありますが、個人的にはこういう交流の場をこれからも有効活用していきたいと考えてます。

以上 ありがとうございます